

## 令和八年第二回薩摩川内市議会定例会 施政方針と予算の概要

### 一 はじめに

令和八年第二回市議会定例会に当たり、市政の状況並びに施策に関する所信の一端を申し上げますとともに、提案いたしました令和八年度当初予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様のご理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、薩摩川内市D E I宣言につきましましては、その理念を広めるため、昨年十二月二十一日、薩摩川内市D E Iフェスティバルを開催しました。一人一人の「ちがひ」とは何か、また、受け入れることの大切さを共有し合える、「D E I」の理解が一層深まる一日となりました。

大晦日から元旦にかけて入来町の大宮神社で奉納される「入来神舞」において、さつませんだいスマイル応援隊のモデル事業として、市内他地域から小・中学生三名を含む四名の踊り手が参加し、奉納されました。

先月七日から十二日までの六日間、ホッケー女子日本代表チーム「さくらジャパン」の合宿が行われ、九日には歓迎式を開催しました。本市における同チームの合宿は初めてであります。来月、チリで開催される第十六回F I Hワールドカップ

最終予選における御活躍を心から願っております。

年始の恒例行事である消防出初式につきましては、先月十日に本土会場で、また十一日には上甌・下甌の両会場で開催いたしました。その場をお借りし、日頃の訓練や消防団活動に対し、改めて感謝の言葉を述べたところであります。今後、消防団や消防後援会をはじめ、関係機関との連携を一層深め、防災体制の維持・強化に努めて参ります。

先月十一日には、二十歳のつどいを開催し、参加された皆様の新たな門出を祝い、エールをお送りいたしました。本市の未来を担う、希望に満ちた若い皆様の活躍を大いに期待しております。

先月十六日、本市産農産物の首都圏における消費拡大と販売促進を図るため、東京都中央卸売市場大田市場において、私自ら本市産「鹿児島きんかん・いりき」のトップセールスを行いました。また、東京都庁で開催された「まるごと鹿児島さつませんだいフェア」においても、きんかん生産者の方々と共に、試食宣伝活動を行い、本市農産物の魅力の発信を図って参りました。引き続き、生産者の皆様と力を合わせ、本市産農畜産物の消費拡大と販売促進に取り組んで参ります。

先月二十二日、自由民主党本部で開催された、森山裕衆議院議員が会長を務められる、港湾議員連盟総会に出席し、重要港

湾を有する市の立場から、川内港唐浜地区国際物流ターミナルの暫定供用開始を報告したほか、地域産業の振興や国際物流の強化に資する重要プロジェクトであることを発信いたしました。加えて、川内港背後地において、サーキュラー都市を目指す取組や国内最大級のAIデータセンターの開設の動きなど、新たな産業展開が進展している状況を報告し、事業の早期完成に向けた引き続きの支援と協力をお願いしました。今後とも、国・県に対して、早期完成及び港湾施設の充実を強く要望して参ります。

今月六日、本市を含む六市町の企業が集う「薩摩國合同企業説明会」を開催しました。当日は、八十五社の企業の皆様に参加され、過去最多となる北薩地域六高等学校の生徒、約八百名に加え、百名を超える一般の求職者の皆様に対し、自社の魅力をPRしていただきました。今後も、地元企業の認知度向上を図るとともに、新卒者や転職者の獲得に向けて取り組んで参ります。

また、今月七日、川内原子力発電所での事故を想定した、鹿児島県と本市を含む関係市町が主催する原子力防災訓練が行われました。福島第一原子力発電所事故を教訓に見直された、国の災害対策指針等を踏まえ、昨年、本市が提案を行った、複合災害に伴う道路損壊等による孤立集落からの住民避難訓練の

実施等に加え、市独自でも大規模地震時の職員参集訓練や甌島における津波避難訓練等を実施しました。今後も、国や鹿児島県をはじめ、関係機関と十分に協議を行い、原子力防災対策の更なる実効性向上に生かして参ります。

今月十一日から十三日間までの三日間、「C i r c u l a r C h a l l e n g e W e e k i n 薩摩川内」を開催いたしました。このイベントは、「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向けて、本市が有する「ブランド価値」を国内外の企業や関係機関等に広く発信し、市民理解の深化や市内の気運とシビックプライドの醸成につなげることを目的として開催いたしました。市民や市内の事業者に向けた体験・体感型イベントの開催に加え、日本、台湾の産官学金のキーパーソンの方々に、サーキュラーエコノミーを軸とした講演を行っていただきました。川内港背後地における、「サーキュラーパーク九州」構想の取組やAIデータセンターの開設の動きなどの経済発展ビジョンをアピールしたところがあります。

また、今月十三日には、九州地方で初めての開催となる、令和七年度九州地方資源循環自治体フォーラムが本市で開催され、地方創生へとつなげる先進的な自治体や企業の取組事例が共有されました。

さらに、期間中の今月十二日には、本市、鹿児島県とサーキ

ユラーパーク・川内（火力）発電所跡地でAIデータセンターの開設を計画している、凱信数基（カイシンデジタルインフラストラクチャー）株式会社、サーキュラーパーク九州株式会社及び九州電力株式会社の五者において、「AIデータセンター早期開設に関する覚書」を締結しました。これは、サーキュラーパーク九州内及びその周辺地域における開設が、円滑かつ早期に行われるよう、誠意を持って相互に協力・連携して取り組むことを確認したものであります。

また、経済産業省が実施する、日本の産業競争力を強化し、経済成長と脱炭素社会を同時に実現することを目的とした「GX戦略地域」の指定についても、鹿児島県と連携して取り組んでおります。引き続き、県や関係機関、事業者の皆様と連携し、産業クラスターの形成に向けた取組を着実に進めて参ります。

## 二 施策の概要

国は、令和八年度予算について、令和七年度補正予算と一体で編成し、基本方針に沿って切れ目なく実行することで、日本列島をより強く、そして豊かにしていくとの考えを示しています。四十七都道府県のどこに暮らしていても、安全・安心な生活を営むことができ、必要な医療や福祉サービスを受けら

れ、更に質の高い教育や働く場が確保されている、そのような日本の姿を実現するためには、「強い経済」の構築が不可欠であるとしています。

このような中、本市においては、引き続き、第三次総合計画に掲げた未来のまちの姿の実現を目指し、誰一人取り残さない、持続可能で、笑顔あふれる魅力的なまちづくりを力強く推進して参ります。

行財政運営においては、社会変化が著しい中、市民ニーズを的確に把握し、限られた財源を有効に活用するため、既存事業については事業効果や成果を厳しく検証するなどの見直しを積極的に行うとともに、新規事業については、国等の財源を最大限に活用し、新たな施策の展開を図って参ります。

これらを踏まえ、令和八年度は、「子ども・子育て」、「高齢者の健康生きがいづくり」、「コミュニティ・市民活動」、「産業人材確保・移住定住」、「SDGs・カーボンニュートラル」、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」の六項目にポイントを置き、予算の選択と集中を図りながら、新たな行政課題の解決に積極的に取り組んで参ります。

「子ども・子育て」につきましては、令和八年度から、生後六箇月から満三歳未満の子どもについて、保護者の就労要件にかかわらず、月十時間を上限として時間単位で柔軟に保育所等

を利用できる、乳児等支援給付事業、いわゆる「こども誰でも通園制度」を開始し、その利用料の一部を市が負担いたします。

また、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、本年四月からは、国の補助制度と市の一部補助により小学校の給食費を無償化し、全ての児童が無償で学校給食を利用できるようになります。また、幼稚園と中学校の給食費については、物価高騰への対応として、市の補助を引き続き実施して参ります。これらの取組を通じて、安心して子どもを産み育てることができるよう環境づくりに向け、支援の一層の充実に努めて参ります。

「高齢者の健康生きがいくくり」につきましては、高齢者が自宅で安全・安心に生活できるよう、日常の安否確認が容易にできる、見守り機器の導入費用の一部を助成することで、本人のみならず、見守る家族も安心できる環境づくりを支援するほか、住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、軽い運動等による認知症予防、更に栄養や口腔ケアに関する講話を行うなど、気軽に参加できる介護予防事業を市内全域で実施して参ります。これらの取組を通じて、高齢者自らが社会とのつながりを保ちながら生きがいを持つことによつて、誰もが安心して生活を続けられる地域づくりに努めて参ります。

「コミュニティ・市民活動」につきましては、近年の異常気象に伴う熱中症予防のため、空調設備設置助成事業の対象を、

全ての自治公民館に拡充するとともに、人口減少や少子高齢化による地域活動の担い手不足に対応するため、伝統行事や伝統芸能の継承等に地域外から参加・支援する人々と地域をつなぐ体制をさつませんだいスマイル応援隊事業により整え、地域社会の維持と活性化を図るなど、地域力の向上に努めて参ります。

「産業人材確保・移住定住」につきましては、既存の人材確保・移住定住施策を継続しつつ、就業及び移住定住の更なる促進を図るために、新たに情報発信の強化等に取り組みます。

また、薩摩國雇用創造協議会とも連携を図りながら、人材の確保が困難な局面を克服するため、企業と求職者のマッチング機会を創出する取組を中心に展開し、多様な分野における人材の確保・育成にも継続して取り組んで参ります。

「SDGs・カーボンニュートラル」につきましては、引き続き、市民の皆様や事業者等と連携し、SDGsの普及啓発と人材育成を行って参ります。また、「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向け、資源循環の理解促進のための市民向けの工場見学イベントを行うなど、シビックプライドの醸成を図り、二〇三〇年のSDGsの達成、二〇五〇年のカーボンニュートラルの達成を目指して参ります。

「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」につきましては、契約締結事務の迅速化を図るため、電子ファイルに電子

署名を付与する契約方式を導入するほか、災害時に情報を一元的に把握できる災害用備蓄管理システムを導入するなど、デジタル技術を活用した行政サービスの向上に取り組んで参ります。これらの六項目にポイントを置きながら、市民生活の安定、地域経済の発展に向け、第三次総合計画に掲げた政策を総合的に推進して参ります。

なお、薩摩川内スマイルアクション五〇に関しては、遊具整備事業や企業立地支援事業等を着実に進めて参ります。

コミュニティ・都市経営「共生と多様性で輝くまち」につきましては、広聴広報を充実させるとともに、地区コミュニティ協議会及び自治会の活動・連携を支援するほか、引き続き誰もが薩摩川内市に住み続けたいくなるような、多様性（ダイバーシティ）・公平性（エクイティ）・包摂性（インクルージョン）のある社会づくりに努めて参ります。

市民安全・消防「安全・安心なまち」につきましては、住み慣れた地域で、安全・安心に住み続けられるよう、リサイクル率の向上と自律的な資源循環の実現に向けて取り組みます。

また、防災・原子力安全に関しては、防災力強化のために、引き続き防災行政無線システムの更新を行うほか、平成十八年豪雨から二十年の節目となることから、防災啓発番組を制作するなど、出前講座や各種イベント等を通じて一層の啓発を図つ

て参ります。

消防・消防団に関しては、消防資機材の年次的な整備や、装備の充実と消防分野のDXの推進を図って参ります。

保健福祉「健やかに暮らせるまち」につきましたは、引き続き、子育て世帯に寄り添い、多様なニーズに応じた子育て支援と保育サービスの充実に取り組みとともに、全ての市民が住み慣れた地域においてお互いを尊重し合いながら共生して暮らすことのできる体制づくりに取り組みます。

また、健康づくりに対する市民意識の向上のための普及・啓発を図り、健康で生き生きと安心して暮らし続けられる体制づくりに取り組みます。

教育「次世代につながる教育のまち」につきましたは、学校の洋式化や特別教室への空調設備の整備に引き続き取り組みながら、学校と地域が連携・協働し、全ての子どもに寄り添い、自らの可能性を追求できる誰一人取り残さない学校教育を実現し、将来を担う若者の未来をたくましく生きる力を育て参ります。

また、文化財に関しては、地域・市民の手で守られ、次世代に保存・継承される環境整備に努めて参ります。

産業・シテイセールス「活力と賑わいを生み出すまち」につきましたは、農林水産業に関して、生産基盤の強化を図り、担

い手の確保・育成と所得向上に向けた支援及び六次産業化の促進に継続して取り組み、農林水産業の経営の安定と雇用の創出に努めて参ります。また、商工業に関しては、商圈機能の維持拡大を図るため、地域の強みや特性を生かした企業の振興や産業の創出に取り組むとともに、引き続き、産業人材の確保に努めて参ります。

加えて、川内港久見崎みらいゾーンや入来工業団地への産業立地を推進するとともに、川内港唐浜地区国際物流ターミナル整備事業における唐浜埠頭の本年四月からの暫定供用開始を受け、新たな航路開設に向けた調査に取り組み、川内港背後地においては、A Iデータセンターのスピーディな事業展開を行う企業に対応するため、調査を実施して参ります。

観光に関しては、交流人口及び経済活動の拡大を図るため、旅行商品造成に向けた取組や、イベントコンベンション等の誘致による本市への誘客を図るとともに、若者を対象とした市民参加型のイベントを開催し、経済活性化の促進を図ります。また、ふるさと納税につきましては、引き続きPR促進に取り組んで参ります。

文化・スポーツにつきましては、伝統芸能及び愛着のある地域文化の保存・継承活動への支援を行って参ります。加えて、スポーツ合宿等の誘致や、スポーツに親しみ活動を楽しむため

の取組や環境整備を推進して参ります。

建設・水道「社会を支える快適なまち」につきましたは、川内川河川改修事業や流域治水対策等により、防災基盤の整備保全に努めます。また、南九州西回り自動車道阿久根川内道路については、早期完成に向け、川内宮之城道路の高規格道路への位置付けと併せて、引き続き関係機関と一体となった国への要望活動を実施して参ります。重要港湾川内港については、国直轄による耐震強化岸壁の整備や鹿児島県による埠頭用地の整備が進められているほか、北海道室蘭市と鹿児島県の間でガントリークレーンの譲渡・移設の協議も合意に至っており、早期の供用開始に取り組んで参ります。

以上、施策の概要を述べましたが、令和八年度におきましても、本市の未来を創造し、市民の皆様と共に、第三次総合計画に掲げる未来のまちの姿である「人が繋がり 人が輝く 安らぎと賑わいのまち 薩摩川内」の実現に向け、まい進する所存であります。

### 三 予 算 の 大 綱

令和八年度当初予算案においては、予算編成方針に基づき、第三次総合計画に基づく実施計画事業、重点戦略プラン事業及

び薩摩川内スマイルアクション五〇の着実な進展を図り、薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言や薩摩川内市SDGs未来都市計画の趣旨を踏まえた取組の推進等の予算を編成したところであります。

これらの結果、一般会計当初予算は、前年度当初予算に比べ、一・三パーセント増の五百九十九億一千万円となりました。また、温泉給湯事業など八つの特別会計は、合計で二百六十七億六千四百十一万二千元となったほか、水道事業など三つの公営企業会計は、合計で五十九億九百六十八万五千円となりました。

なお、令和八年度においても、年間予算として編成したところであります。特定離島ふるさとおこし推進事業など採択状況を見極める必要があるものにつきましては、六月期の補正予算案として提案する方針であります。

#### 四 む す び

本定例会におきましては、薩摩川内市企業立地支援条例の一部を改正する条例の制定についてをはじめとする各議案の御審議をお願いしております。また、法律の改正に伴う職員等の給与経費等に係る一般会計、特別会計及び公営企業会計の補正を提案しておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

ます。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部局・課長等から説明させていただきますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます、私の施政方針といたします。